

豊橋市民病院だより

青竹

27
NO.

2006.1.23

編集：病院広報紙編集委員会

委員長 鈴木 道生

- 2 新任医師のご紹介
- 4 診療技術局から
- 6 くすり箱
- 7 診察待ちを有効に
- 8 ご意見箱～院長からのご返事
- 10 私と画像
- 12 お知らせ



モザイクレリーフ「歓び」

豊橋市民病院

謹賀新年



小林淳剛 院長



渡邊正男 副院長

新年を迎え、私ども医療従事者は
気持ちを新たにし、本院の掲げる理念

信頼に応える技術

人に優しい思いやりのある心

地域に開かれた安らぎのある病院



岡村正造 副院長

をめざして一層の努力をまいります。



白井正一郎 副院長



鈴木道生 医局長

新任医師のご紹介



- ① 所属
- ② 前任地
- ③ 趣味
- ④ その他 自由（抱負、自己PR、家族のこと、最近思うことほか）
- ⑤ 赴任年月日

鈴村 潔



- ① 外科
- ② 名古屋大学医学部
附属病院
- ③ 映画鑑賞・読書
- ④ 名古屋大学第一外科で赴任先の希望を尋ねられて、“手術の多い施設を”とお願いしたところ希望を叶えていただくことができました。妻と子供併せて5人で引っ越してまいりましたが、目下のところ、全員がこの新しい環境を大変気に入っております。新しい環境にできるだけ早く慣れて、病院、地域に貢献できるよう頑張りたいと思っております。
- ⑤ 平成18年1月1日

佐藤千峰



- ① 放射線科
- ② 名古屋大学医学部
附属病院
- ③ ベンチャーズを聴くこと、写真
- ④ 平成12年卒の佐藤千峰（ちほ）と申します。3年ぶりに東三河の病院に赴任となりました。何でも気軽に話せる医師を目指していますので、どんな事でも患者様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。
- ⑤ 平成18年1月1日

栄養管理室

選択メニューについて

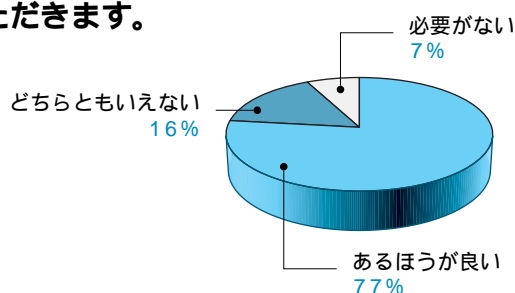
当院では、常食・軟菜食・全粥食（特別食を除く）を召し上がっていらっしゃる患者さまは、朝・夕食のメニューの選択が毎日できるようになっています。朝食はご飯食・パン食のどちらかを、夕食は主菜（魚・肉・卵・豆腐料理など）を2種類から選択できます。

選択メニュー用紙を：月曜日（同週の木・金・土・日曜日のメニュー分）

：木曜日（次週の月・火・水曜日のメニュー分）

に昼食の配膳と一緒にお配りし、選択していただきます。

平成17年10月に行った食事アンケートでは、選択メニューについて「あるほうが良い」と答えた方は、77%いました。



当院では選択メニューの実施を、平成9年に週1日1病棟のみで開始しました。その後、順次拡大を図り、平成16年度より毎日、全病棟で実施しています。今後も食事の内容とともに、選択できる食種を増やすなど充実をしていきたいと思っております。



みんなの作品展

作業療法は、リハビリテーションの中でも特に食事、整容、更衣、排泄といった生活の中で行う動作の（再）獲得や、家事動作、職業復帰ができるように訓練、援助を行っています。残存機能を生かし治療の一環として作業活動を取り入れ、作製した作品を年に一度、正面玄関（アトリウム）にて展示しております。昨年も文化の日に向けて「みんなの作品展」を行いました。作品はちぎり絵、絵画、手工芸品など40点でした。

アンケートでは「作品を見て励まされた」、「素晴らしい作品を見せていただきありがとうございました」という声が多数ありました。今年も行う予定です。是非見に来てください。



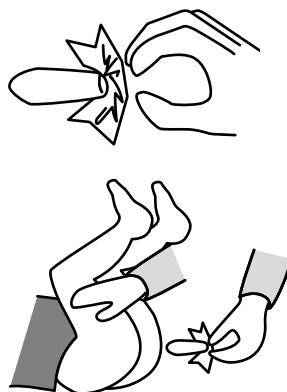


こどもへの 坐薬の使い方

(1) 挿入の方法

坐薬の包装をはがし、薬を取り出します。薬は尾部にティッシュペーパーをかぶせてつまみ、仰向けに寝かせて両足を上げた姿勢にし、坐薬を先端から静かに肛門に差し込んでください。

深さは、指が少し（第一関節位まで）肛門内に入る程度、坐薬が入ったら肛門入り口をしばらく指で押さえゆっくりと足を延ばすと肛門は締まります。



(2) 切って使うときは

1回半個などの指示がある場合は包丁、カッターなどで斜めに切ってお使いください。包装から取り出す前にはさみで切っても良いでしょう。



(3) 冷たさ、刺激があるときは

冷蔵庫から取り出してすぐに使うと、冷たいために、痛みを感じたり、便を出したくなったりすることがあります。しばらくおいて室温に戻るか、手のひらで温めてから使用してください。

(4) 入りにくいときは

薬の表面に水またはオリーブオイル、ベビーオイルをつけておくと滑りやすくなり、肛門に入りやすくなります。

(5) 坐薬を入れた後に便をだしてしまったら

坐薬が形で残っている場合にはそれをもう1度挿入し、形が見られない時はすでに体に吸収されていると思われますので、そのまま再投与せず、熱の下がり具合や症状などの様子を見る必要があります。

坐薬には解熱剤ばかりでなく、吐き気止めやけいれん止めなどの種類もありますので、間違えないように使用して下さい。

薬局

診察待ちを有効に

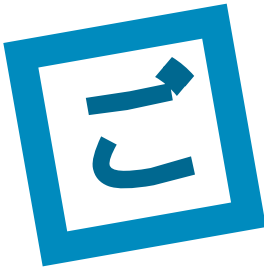
診察待ち時間の有効利用にと診療棟1階アトリウムに外来各科の診察状況（診察時間）や病院利用案内、時事ニュースなどを流す「総合情報表示システム」を設置しました。

今までは受診科前で診察時間の表示を見て診察待ちをしなければなりませんでした。アトリウム内で待機していても各外来診察室の診察時間が分かり、また最新のニュースを見るなどしてリラックスして診察待ちができるようになりました。

今後來院された方へ益々充実した病院利用案内、行事案内等の情報発信を進めて参ります。



医療情報課



～ 院長からのご返事～

1. 会計窓口で両替をお願いしたら断られました。なぜできないのでしょうか？

ご返事

『会計窓口は患者さんの医療費支払いの“収納”のみを三菱東京UFJ銀行等に委託しているもので、通常の銀行業務を行っているものではありません。従いまして両替など一般の銀行等が行っているサービスは一部制限されています。ご協力をお願いいたします。』

2. 病院内で携帯電話を使えるようにして欲しい。

ご返事

『病院内での携帯電話の使用ですが、入院中で心細い時など、携帯電話で話すことによって心の安定が得られるなどの良い影響もあると認識しています。携帯電話が医療機器などに与える影響につきましては、厚生労働省から一定のガイドラインが示されました。そのガイドラインに沿う形で、院内で使用可能な場所を設けられるように、現在調整しています。今しばらくお待ちください。』

平成18年2月1日から使用許可区域を設定し、その区域での携帯電話の使用を認めることとなりました。

3. 診察や検査で名前を呼ぶとき、正確に呼んで欲しいです。形式的に確認するだけではミスはなくならないと思います。

ご返事

『本人確認は患者さんへ安心感・信頼感を与え、安全・安心な医療を行ううえでの基本となるものです。患者さんの中には度々の本人確認に煩わしさを訴える方も見えますが、院内で作成している「医療安全管理マニュアル」の中にも“本人確認の手引き”として方法が記載されており、患者さんにご協力をいただくなかで運用しています。そういう意味から、このような感想をもたれたこと自体、病院として大変重く受け止めなければならないと思っています。今後、より指導を徹底いたします。』

4. 夜間、救急外来を受診しましたが、待ち時間が長すぎ患者も付き添いも疲れてしまいます。

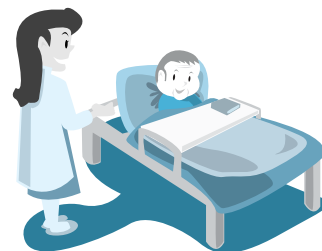
ご返事

『当院の救命救急センターは、第三次救急という位置付けで、心筋梗塞や頭部外傷などの重症救急患者を受け入れる施設になっています。現在、お見えになった患者さんは全て診させていただく形で運用していますが、上記のように重症救急患者が搬送されたり、また患者さんが多くお見えの時などは、医師が患者さんの重症度をみためて、順番を決めさせていただくルールになっています。そういう意味から、状況によっては長時間お待ちいただくことがあることを、ご理解いただきたいと思います。』

5. 50歳過ぎて初めて入院生活を体験しました。設備のよさ、医師・看護師さんの細やかな対応に敬服しました。関係者の皆様、心温まる対応に感謝します。

ご返事

『お礼のお言葉ありがとうございました。このようなご意見に接しますと、病院に働く者として大変勇気づけられ、また励みとなります。今後とも同様の感想をもたれますように、努力いたします。ありがとうございました。』



6. 病室が不足しているのは知っていますが、傷口が順調だからといって若い人と同じように退院を強いられました。退院が早ければ喜ぶというものではありません。

ご返事

『当院は、急性期病院（病態の激しく変化する最初の時期を受け持つ病院）であり、病室が不足した時など術後経過の非常に良好な方に退院をお願いすることがあります。患者さんの多い疾患につきましては“クリティカルパス”といいまして入院患者さんの管理に、標準的な手順を示した入院治療計画書を作成し、これに沿って治療を行っています。退院につきましては画一的に適用するものではありませんので、退院されても大丈夫との医師の判断があったものと推測いたします。若い患者さんと同じような期間に退院できたご自分を誇りに思っていたとしてもよろしいのではないのでしょうか。』



7. 毎日毎日担当の看護師さんが代わるので患者の状態をどれだけ把握してくれているか心配ですが...

ご返事

『当院では“固定ナーシング”といいまして、1人の患者さんを複数の決まった看護師がチームで看護する形をとっています。看護師が頻繁に代わることにつきましてご心配のようですが、しっかり業務の引継ぎを行って患者情報の共有を図り看護をしています。ご安心ください。』



8. 集中治療室内の家族待合室のベッドをやめて、畳にすれば今より多くの方がくつろげると思います。

ご返事

『大変建設的なご意見ありがとうございました。集中治療室（ICU）に入院されている患者さんのご家族が、夜間などでも安心してお待ちいただけますように、集中治療室の家族待合室には仮眠用のベッドを用意させていただいています。集中治療室には重症で抵抗力の大変弱い患者さんが入院されていることから、“畳”の使用につきましては衛生管理・感染予防の観点からなかなか難しいところです。しかし、家族待合室の環境整備につきましては、少しずつでも進めていこうと思っていますので、お気づきの点がありましたら、何なりとご意見をいただけたらと思っています。』

私と画像

豊橋市民病院長

小林淳剛

私とカメラの付き合いは中学3年の修学旅行の時に父にねだって買ってもらった2眼レフのマミヤフレックスが最初でした。6×6判で四角い箱型で上からガラス板を覗き込んでピントを合わせるものでした。このカメラは現在も機能しますが、残念ながら当時撮影したフィルムも焼き付けた白黒写真も残っていません。

2台目は大学の入学祝いに父が買ってくれたニコンFです。このカメラが今後の私のカメラを決めてしまいました。しかしこのカメラで撮影したネガも写真も多くはありませんでした。3台目がニコンF2で、新婚旅行に持って行きました。その時撮影した一部のフィルムは巻き戻さず裏蓋を開けたため、だめになり記録に残せない時間帯が存在することになりました。

昭和51年長女の誕生を機にニコンF3を購入し沢山の写真を撮りました。大学の無給副手時代で村瀬先生や田中先生と一緒にアメリカの病院見学に出かけました。重いニコンF3も持って行きファインダーを通してアメリカを見て参りました。当時最先端の心筋保護法であった cardioplegia(心筋保護)と topical cooling(局所冷却)を写し、持って帰りました。帰ってから大学で村瀬先生や田中先生が cardioplegiaを始めました。程なく私は豊橋市民病院に赴任いたしましたのでここで cardioplegiaを始めました。

昭和62年次女の誕生を機にニコンF4を購入





し沢山の家族の写真を撮りました。昭和63年に三女が誕生しましたので色々な機会がある度に沢山の写真を撮り、三女が中学校に入学するまでの写真はアルバムに整理ができていました。その後は何か行事がある度に沢山の写真は撮影いたしました、整理ができず、各人別に箱に詰めたままになってしまいました。何とかネガだけは日付を記入し整理はいたしました。

その後カメラとの付き合いは少なくなってまいりましたが、副院長になり院内を見回るようになり、再び付き合いが多くなりました。最初の数回はニコンF4を持って回りましたが、撮影時期と写真として見られるようになるまで時差があり、日付も入れてなかったのも、整理に困難を来しました。このような理由でデジカメの富士フィルムのファインピックスを購入し、持って回るようになりました。

2年程前よりニコンの交換レンズが活かせるニコンD100を持って回っています。最初は医療事故防止のためのあら捜しとして始めました。しかし、その後は見て回る重点部位を決めて、各病棟や各部署を撮影し、時間の経過と共に改善されていくのを記録に留めてきました。又、病院が工事により変貌する前後を記録に残そうと考え撮影を続けています。最近では、どの職員が頑張ってくれているか写真に写して回っています。職員には写真に写っている

子はよく働いている子とほめて士気を高めています。

撮影した写真の整理は最初の内はハードディスクに保存し、MOでバックアップをとっていましたが、量が増えるに従いバックアップはCDで行いました。さらに量が増え、保存は外付けのハードディスクに、バックアップはDVDで取るようになりました。これにより何年・何月・何日・何時・何分の病院の何処の場所の写真か分かりますし、逆に何年・何月・何日の何処何処の写真が欲しいと思えば取り出せるようになりました。

このような経験より、病院の画像データは将来必ず電子カルテ化するものと確信しています。一気に全部の画像データを電子カルテ化するのは予算的にも無理があり、3段階に分けて導入して行きたいと考えています。第一段階として平成18年はポータブルフィルム、CT、MRI、シンチを電子カルテ化し、第二段階の平成19年には一般撮影、第三段階は、その他の画像データを電子カルテ化したいと考えています。これにより省スペース化とフィルム等の整理や検索等に費やされていた時間の節約ができ、患者さんと接する時間を増やすことが可能となります。

お知らせ

第35回健康教室

- と き** 平成18年2月18日(土) 午前10時～午前11時30分
- と ころ** 豊橋市民病院講堂(診療棟3階)
- 内 容** 講演「病理解剖の意義について」
講師/前多松喜(臨床病理科部長)
臨床病理に関する質疑応答
- 対 象** どなたでも
- 参加料** 無料
- 申 込** 平成18年2月14日までに、はがき(住所・氏名・年齢・電話番号を明記)か直接または電話で豊橋市民病院健診センター
(〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地 Tel.0532-33-6271)へ

豊橋市民病院の理念

信頼に応える技術、人に優しい思いやりのある心、地域に開かれた安らぎのある病院
豊橋市民病院の基本指針

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。

当院のご案内は下記でも行っています。併せてご覧下さい。
豊橋市民病院インターネットホームページアドレス
<http://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp>